

関東地区スペシャルオリンピックス COVID対策を講じて開催
Kanto Plains Special Olympics kicks off with a Mitigation Plan against COVID

June 2, 2021

By Airman 1st Class Tyrone Thomas
374th Airlift Wing Public Affairs

今年で第42回目を迎える関東地区スペシャルオリンピックスが、選手の安全を守り、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための新たな対策を講じて5月22日に行われた。

関東地区スペシャルオリンピックスは、障害の有無にかかわらず、すべての人が受け入れられ、歓迎される、新たな社会創造に寄与することを目指している。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・J・キャンベル大佐は、「この大会は何年も前に、下士官協会が始めた。今日のコロナ禍の中でもこの伝統を続けられることを誇りに思う。パンデミックの影響により、地域の人々と共に過ごす特別な機会は、我々にとって更に特別なものとなった。今日ここに集まってくれたボランティアそして勇敢な選手の皆さん全員に感謝します」と述べた。

関東地区スペシャルオリンピックスが実施した対策では、参加者の安全のために、イベントに参加する前の検温、マスクを着用すること、道具を使用する前と後に消毒することなど、一定の制限事項を守ることを約束する書類に、参加者全員が署名することを定めた。

それらの注意事項に加え、ボランティアは選手が触れるものに手袋を着用し、人と人との距離を置くことを徹底したほか、ソフトボールやサッカーボール、スローイング・ディスクを洗う衛生ステーションを設置するなど、新型コロナウイルス感染症拡大を抑えるための取り組みを行った。

2021年関東地区スペシャルオリンピックス・ディレクターのケイシー・ジョーンズ曹長は、「去年は、基地の他の多くのイベントと同じように、同大会は新型コロナウイルス感染症の流行で中止となった。我々は困惑し、失望したが、関東地区スペシャルオリンピックスのプランナーとボランティアは努力と決意をもって集まり、今回の大会を組織した」と語った。

今回の開催は、米国疾病対策センターのガイドラインを遵守し、衛生基準を維持しながら、コミュニティがイベントや大規模な集まりを楽しむ方法を確立する、新しい日常に向けた一歩だ。

